

文化資料館収蔵衣類資料目録（２）

民俗資料整理グループ^{*1}, 芦葉抄苗^{*2}

1 はじめに

文化資料館が開館以来約 40 年にわたり、収集・保存してきた資料は約 5 万点以上にのぼり、そのうち衣類資料は約 1 万点以上を収蔵している。前号（『文化資料館調査研究報告 22』）において、「文化資料館収蔵衣類資料目録（１）」と題して、いわゆる着物と呼ばれる衣服を中心に、男物、女物、子ども用の晴着から普段着にわたる衣類資料 387 点を紹介した。本号掲載の目録では、前述した着物に付属する小物をはじめ、仕事着や軍服などを紹介する。

仕事着には、農作業用、漁業用、職人用、商売用などがあり、丈夫な素材で働きやすい形に仕立てられている。なかでも、地織りの木綿のものが身体になじみやすく丈夫であるといわれている。

農作業用は、男性用は上衣と下衣に分かれ、女性用は長着が一般的であった。袖は仕事の邪魔にならないように細く筒状になっていた。男性の上衣は衽（おくみ）がなく、衿が裾までついている。ノラギ、ノラジュバンともよぶ。下衣は股引（ももひき）といい、脚にぴったりと沿う形ではいた。色は紺色の無地柄が多いが、縞模様のものもある。

女性用の農作業着は、やや短めの長着で、半巾の帯を締めた。長着は地織りの木綿の縞模様が多かった。さらに、一巾の前掛けをかけ、裾は尻はしよりにして、腰巻を少し出した。

漁師の仕事着は、ポータと呼ばれる長着を着た。その多くは長持ちするように刺し子が施されている。さらに股引をはいた。大正以降になるとセーター状のものを着るようになった。

職人や商店の従業員などが仕事着としている印半纏は、江戸時代には職人や火消し達が、他に腹掛・股引と合わせて着用するのが一般的となっていた。今日でも出初式などの行事時や、神輿の担ぎ手など

が着用している。当館収蔵の印半纏は主に昭和以降の商店で使用されたものであるが、どれも趣向をこらしたデザインや店名が施されており、当時の町並みを思い起こさせる資料でもある。

軍服の黄土色（カーキ色）は国防色ともいわれる。その素材も厚手のものから薄手のものまであり、戦線が様々な気候の土地や季節をまたいでいたことがうかがえる。

今回も収蔵資料の整理にあたっては、市民ボランティアの皆様にご協力を頂いており、その多大なるご貢献のもと、このような目録を発表するに至りましたことを深く御礼申し上げます。

凡 例

一、掲載する衣類資料は平成 26 年 3 月現在の受入状況に基づくものである。

一、収蔵する衣類を材質、用途別に分類した。

一、名称については、「色＋生地＋模様＋衿・単＋男女物＋形態」の順に並べたものを名称とした。（例）「色：黒＋素材：絹＋模様：松竹梅模様＋形態：袱紗」→「黒絹刺繍松竹梅模様袱紗」、
「色：紺＋素材：木綿＋模様：無地＋衿・単：衿＋男女物：男物＋形態：長着」→「紺木綿無地衿男物長着」

一、形態によって男物・女物の分類分けが不要なものは名称から省略した。

一、目録の掲載順は、形態毎に男女物の別、生地の素材別、色の別に揃えて一覧とした。

一、年代は、寄贈者の証言などにより明確な物のみ明記した。

一、印半纏は備考欄において、屋号や模様を明記した。

着物の用語について

- 掛け衿^{かえり}…女物の長着などの地衿の上に掛ける衿のこと。
- 半衿^{はんえり}…長襦袢などの衿に掛けて装飾としたもの。
- 羽織紐^{はおりひも}…羽織の止め紐のこと。S字形の釦が付き、取り外しできるようになっている。
- 帯留^{おびどめ}…帯締めに付ける細工物のこと。
- 襟巻^{えりまき}…防寒用に衿に巻いたもの。古くは首巻といって絹物を巻いていた。大正から昭和にかけては毛皮製品が使用されるようになった。
- 守り袋^{まもぶくろ}…宮参りのときに身に付ける縁起物。乳児の祝着の付紐につるして参拝した。
- 腹掛^{はらがけ}…胸から腹部までを覆うもの。表地は紺色の木綿地で、裏は浅葱色のものが一般的である。前面にどんぶりというポケットが付いている。
- 脚絆^{きゃはん}…脛から下を覆い保護するもの。江戸時代には旅の装備として広く使用され、その後も農作業用や旧日本軍の軍服の一部としても使用された。
- うわっぱり…衣服が汚れないように、外側に羽織る作業衣のこと。
- もんぺ…作業用の女物の下衣。農作業用として広く使用され、第二次大戦中には二部式標準服として全国に普及した。神奈川県では、第二次世界大戦中に新潟あたりの人が農作業を手伝いに来たことがあり、その時に初めてもんぺを見て、便利で働きやすいことを知り、茅ヶ崎にも広まったという。
- 印半纏^{しるしはんてん}…主に紺色の木綿地で、背中に家紋や屋号を大きく白抜きにしているのが特徴である。

- 前掛け^{まえか}…腰に巻いて下半身を覆うもの。前垂れともいう。屋号などを大きく施しているものが多く、商店などで着用されている。
- 夜着^{よぎ}…寝具の一種。広袖の長着に綿を入れたような形の掛け布団のこと。薄綿のものを搔卷（かいまき）という。近年では寝具の変化により需要が減っている。
- 蚊帳^{かや}…就寝時に蚊などの虫の侵入を防ぐために部屋につり下げたもの。
- 夜具地^{やぐじ}…綿などが入った布団を覆う布。側生地ともいう。
- 着尺^{きじゃく}…着物を仕立てるための生地のこと。着尺一反で長着一枚を仕立てる。寸法は長さ 1.4m、幅 36 cm。
- 胴裏^{どううら}…袷の長着の裏に用いる生地。裾廻布と縫い合わせて一枚分となる。
- 裾廻^{すそまわし}…袷の長着の裾の裏布。八掛ともいう。
- 端切れ^{はぎ}…着尺分の長さがないもの。

参考文献

- ・文化出版局編『最新きもの用語辞典』文化出版局発行 2000 年
- ・文化資料館特別展パンフレット「着物で暮らしたあの日あの頃」 1997 年
- *1 資料整理グループとは、文化資料館で収蔵している民俗資料の整理作業を行う市民ボランティアグループのことである。
- *2 茅ヶ崎市教育委員会社会教育課茅ヶ崎市文化資料館社会教育嘱託員（学芸員）

文化資料館収蔵衣類資料目録(2)

番号	資料名	年代	備考
388	黒絹塩瀬無地掛け衿		
389	青絹紹男物半衿		
390	青絹紹繡秋草模様女物半衿		
391	青絹縮緬無地女物半衿		
392	青絹縮緬繡桜花模様女物半衿		
393	紫絹経紹撫子模様女物半衿		
394	紫絹縮緬梅小枝模様女物半衿		
395	紫絹縮緬無地女物半衿		
396	紫絹縮緬小菊模様女物半衿		
397	薄紫絹紹リボン繡小花模様女物半衿		
398	鼠絹繡松竹梅模様女物半衿		
399	鼠絹膨れ織鶴模様女物半衿		
400	象牙色絹縮緬繡葛模様女物半衿		
401	赤絹縮緬繡小菊模様女物半衿		
402	薄桃色絹膨れ織麻葉模様女物半衿		
403	黄絹綾女物半衿		
404	肌色絹縮緬繡小菊模様女物半衿		
405	肌色絹縮緬繡花鳥模様女物半衿		
406	生成絹紹縮緬繡朝顔模様女物半衿		
407	生成絹膨れ織波に桜模様女物半衿		
408	白絹羽二重繡竹梅水仙模様女物半衿		
409	白絹繡小松模様女物半衿		
410	白絹紹無地女物半衿		
411	白絹縮緬刺繡花模様女物半衿		
412	青化織繡菊唐草模様女物半衿		
413	白木綿無地羽織衿芯地		
414	黒絹平組男物羽織紐		
415	濃鼠絹平組男物羽織紐		
416	焦茶絹丸組男物羽織紐		
417	茶絹平組男物羽織紐		
418	白絹丸組男物羽織紐		
419	紺絹平打女物羽織紐		
420	鼠絹丸組女物羽織紐		
421	緑絹丸組女物羽織紐		
422	鶯絹丸組女物羽織紐		
423	黄土色絹丸組女物羽織紐		
424	赤絹平組女物羽織紐		
425	赤絹丸組女物羽織紐		
426	橙絹平組女物羽織紐		
427	白絹丸組女物羽織紐		
428	白絹丸組翡翠玉付羽織紐		
429	帯留		明石焼違竹型
430	帯留		松笠型
431	紫絹鹿の子絞り手絡		
432	薄紫絹鹿の子絞り手絡		
433	緑絹絞り手絡		
434	赤絹絞り手絡	昭和5年頃	
435	赤絹絞り手絡		
436	赤絹絞り手絡		
437	赤絹絞り手絡		
438	桃色絹絞り手絡		
439	桃色絹絞り手絡		
440	白絹鹿の子絞り手絡		
441	黒絹ベルベット裏付女物ショール	大正～昭和	
442	茶狐襟巻		
443	茶狐襟巻		
444	赤絹麻の葉模様懐紙入れ	大正末	
445	赤絹花車模様懐紙入れ	大正末	
446	茶絹緞子楊枝入れ		
447	黒絹繻子刺繡鶴亀松竹梅模様袷紗		

文化資料館収蔵衣類資料目録(2)

番号	資料名	年代	備考
448	赤絹縮緬刺繍鶴に松竹梅模様袱紗	昭和16年	婚礼用
449	赤絹紋綸子鳳凰模様お茶袋	昭和16年	婚礼用
450	筥迫	大正末～昭和初年	桐箱入り、簪、匂い袋付き
451	紫絹緞子龍亀甲模様財布	大正末頃	
452	黄木綿大黒天模様財布	昭和12年	
453	黄木綿梅模様財布		「富久財布」「横濱 岡村天満宮」の文字、梅鉢紋入り
454	白木綿斜め格子模様財布		
455	紫絹綸子銅鏡模様巾着		
456	紺毛織草模様信玄袋		
457	赤絹刺繍女児守り袋		
458	水色木綿刺繍蝶模様守り袋		
459	赤絹刺繍鶴亀模様守り袋	昭和15年	
460	紺木綿無地男児足袋		
461	紺木綿無地男児足袋		
462	臙脂別珍無地足袋		
463	臙脂化繊花模様袷掛け	昭和30年頃	
464	生糸		
465	生糸		
466	絹糸		
467	絹糸		
468	絹糸		
469	真綿		
470	真綿		
471	真綿		
472	麻繊維		
473	反物裁ち雛型		
474	裁縫用袖丸み型紙		「考案者 女子裁縫高等学院 小出新次郎」の文字
475	裁縫練習用雛型	昭和初期	
476	白木綿招き布		「ニチレイ 氷 日本冷蔵」の文字
477	赤木綿無地手拭い		浜降祭に使用か
478	白木綿名入り手拭い		「箱根 湯本ホテル」の文字、龍舟に七福神の図柄
479	白木綿名入り手拭い		「鮮魚 仕出し」「茅ヶ崎市海岸通り 魚林」の文字
480	白木綿名入り手拭い		「茅ヶ崎市新興通り 釜成屋分店」の文字
481	白木綿名入り手拭い		「神輿修復記念 金比羅神社」の文字
482	白木綿名入り手拭い		「金比羅神社改修記念 上町自治会」の文字
483	白木綿名入り手拭い		「祝 浜降祭 金比羅神社」の文字
484	白木綿名入りタオル		「神輿修復記念 金比羅神社」の文字
485	紺木綿無地衿男物長着		ボータ
486	紺木綿縦縞衿男物長着		ボータ
487	紺木綿無地衿男物上衣	昭和	ノラジュバン
488	紺木綿無地衿男物上衣		ノラジュバン、475と重ねて着用
489	紺木綿無地単男物上衣		ノラジュバン
490	紺木綿無地単男物上衣		ノラジュバン
491	紺木綿無地単男物上衣	昭和	ノラジュバン
492	紺木綿無地衿男物腹掛		
493	紺木綿無地衿男物腹掛		ミシン縫い
494	紺木綿無地衿男物腹掛		
495	紺木綿無地衿男物腹掛		
496	紺木綿無地衿男物腹掛		
497	紺木綿無地衿男物腹掛		
498	紺木綿無地衿男物腹掛		既製品か
499	紺木綿無地衿男物腹掛		
500	紺木綿無地衿男物腹掛		477と合わせて着用
501	紺木綿無地衿男物腹掛		ミシン仕立て
502	紺木綿無地衿男物腹掛		461と重ねて着用
503	紺木綿無地衿男物腹掛		519と重ねて着用
504	紺木綿無地衿男物股引		473と合わせて着用
505	紺木綿無地衿男物股引		
506	紺木綿無地衿男物股引		
507	紺木綿無地衿男物股引		

文化資料館収蔵衣類資料目録(2)

番号	資料名	年代	備考
508	紺木綿無地袴男物股引		
509	紺木綿無地袴男物股引		
510	紺木綿無地袴男物股引		
511	紺木綿無地袴男物股引		
512	紺木綿無地袴男物股引		ミシン仕立て
513	紺木綿無地袴男物股引		ミシン仕立て
514	紺木綿無地単男物股引		
515	紺木綿無地単男物股引		
516	紺木綿無地単男物股引		ミシン仕立て
517	紺木綿無地単男物股引		
518	紺木綿無地袴男物脚絆		
519	紺木綿無地袴男物脚絆		ミシン仕立て
520	紺木綿無地袴男物脚絆		
521	紺木綿無地袴男物地下足袋		
522	紺木綿縦縞袴女物長着		ノラギ
523	紺木綿縞単女物長着		普段着を仕事着に仕立て直したもの
524	紺絹交織縦縞単女物上衣	昭和18～20年頃	501と合わせて着用
525	紺木綿縞単女物上衣		ミシン仕立て、502と合わせて着用
526	紺木綿縞単女物上衣		うわっぱり
527	紺木綿菱形模様単女物上衣	昭和16～20年頃	うわっぱり、504と合わせて着用
528	紺絹交織縦縞単女物もんぺ	昭和18～20年頃	497と合わせて着用
529	紺木綿縞単女物もんぺ		ミシン仕立て、498と合わせて着用
530	紺木綿縞単女物もんぺ		ミシン仕立て
531	紺木綿縞単女物もんぺ	昭和16～20年頃	ミシン仕立て、500と合わせて着用
532	紺木綿縞単女物もんぺ		
533	紺木綿縞単女物もんぺ		
534	紺木綿印半纏		襟に「温室椎茸 百合園栽培」の文字、背に椎茸、腰に丸太に椎茸模様
535	紺木綿印半纏		襟に「温室椎茸 百合園栽培」の文字、背に椎茸、腰に丸太に椎茸模様
536	紺木綿印半纏		襟に「林屋本店」の文字、背に屋号(「ヤマ」印に「本」)、腰に林の角字模様
537	紺木綿印半纏		襟に「海陸物産 山鐵商店」の文字、背に屋号(「ヤマ」印に「鐵」)、腰に山鐵の角字模様
538	紺木綿印半纏		襟に「屋号(「ヤマ」印に「ト」)魚藤本店」の文字、背に「藤」の文字模様、腰に三つ柏模様
539	紺木綿印半纏		襟に「屋号(「マル」印に中)中井」の文字、背に屋号(「マル」印に中)、腰に角字模様
540	紺木綿印半纏		襟に「建築 加藤」の文字、背に「勝」の文字模様、腰に角字模様
541	紺木綿印半纏		襟に「屋号(「マル」印に「和」)本家醸」、背に屋号(「マル」印に「和」)、腰に「最上清酢」の文字模様
542	紺木綿印半纏		襟に「相模 茅ヶ崎座」の文字、背に紋
543	紺木綿印半纏		襟に「深作林業所」の文字、背に右二つ巴紋
544	紺木綿印半纏		襟に「茅ヶ崎 鈴木金物店」の文字、背に屋号(「ヤマ」印に「一」)
545	紺木綿印半纏		襟に「下町」、背に帆かけ舟に「住吉」の文字、腰に波に千鳥模様
546	紺木綿印半纏		襟に「家具(丸囲み) 高橋」の文字、背に「高」の文字模様、腰に橋の角字模様、476と重ねて着用
547	紺木綿印半纏		襟に「阿部浅」の文字、背に「丸に違い鷹羽」紋に屋号(「カネ」印に「八」)、腰に八の角字模様
548	紺木綿印半纏		襟に「下町」、背に帆かけ舟に「住吉」の文字、腰に波に千鳥模様
549	紺木綿印半纏		襟に「屋号(「ヤマ」印に「ト」)魚藤本店」の文字、背に「藤」の文字模様、腰に三つ柏模様
550	紺木綿印半纏		襟に「松屋鯉節店」の文字、背に屋号(「カネ」印に「与」)、腰に松屋の角字模様
551	紺木綿印半纏		襟に「南湖院」の文字、背に屋号(「マル」印に「高」)
552	紺木綿印半纏		襟に「田村染物店」の文字、背に「中輪に木瓜」紋
553	紺木綿屋号入り前掛け		「ミツワ (三つ輪違い紋) 練炭 三ツ輪練炭工業株式会社」
554	紺木綿屋号入り前掛け		「かどきち 屋号(四角囲みに「吉」) ミツワ石鹸 ライオン石鹸 ライオン歯磨 ちり紙王将 株式会社 井上善太郎商店」
555	紺木綿屋号入り前掛け		「トモエ化成 右三つ巴紋 貯金は農協茅ヶ崎市農協 電話茅ヶ崎2657藤沢8316番」
556	紺木綿屋号入り前掛け		「明治オレンジジュース Meiji 明治製菓株式会社」
557	紺木綿屋号入り前掛け		「最優等清酒 神聖 山本本家醸」
558	紺木綿屋号入り前掛け		「菓子現金問屋 二木 御徒町営業所 開設記念 東京都台東区上野町1-12 電話下谷(83)8584」
559	紺木綿屋号入り前掛け		「切鯛製造 海産物問屋 屋号(「カネ」印に「久」) 東京 株式会社金子商店」
560	紺木綿印半纏地		身頃と袖のみ、腰に橋の角字模様
561	紺木綿印半纏地		襟のみ、「高島家」の文字
562	紺木綿印半纏地		襟に「土木建築 浅岡工務店」の文字、背に「丸に四つ目結」紋、腰に角字模様
563	紺木綿印半纏地		襟に「土木建築 浅岡工務店」の文字、背に「丸に四つ目結」紋、腰に角字模様
564	紺木綿印半纏地		襟に「割烹 美吉家」の文字、背に屋号(「マル」印に「舛」)、腰に桜模様
565	紺木綿印半纏地		襟に「割烹 美吉家」の文字、背に屋号(「マル」印に「舛」)、腰に桜模様
566	紺木綿印半纏地		襟に「割烹 美吉家」の文字、背に屋号(「マル」印に「舛」)、腰に桜模様
567	紺木綿印半纏地		襟に「割烹 美吉家」の文字、背に屋号(「マル」印に「舛」)、腰に桜模様

文化資料館収蔵衣類資料目録(2)

番号	資料名	年代	備考
568	紺木綿印半纏地		襟に「松屋鯉節店」の文字、背に屋号(「カネ」印に「与」、腰に松屋の角字模様
569	紺木綿印半纏地		襟に「大森」の文字、背に屋号、腰に角字模様
570	紺木綿印半纏地		襟に「南湖院」の文字、背に屋号(「マル」印に「高」)
571	鼠木綿印半纏地		身頃と袖のみ、背に「波に三つ鱗」紋
572	浅葱木綿印半纏地		裏地用
573	黒木綿縦縞綿入夜着		かいまき
574	茶木綿格子花模様綿入夜着		かいまき
575	白麻ぼかし模様蚊帳	昭和30年頃	
576	白麻ぼかし模様蚊帳	昭和中頃	
577	白麻ぼかし模様蚊帳	昭和中頃	
578	紺毛織旧日本海軍軍服外套	昭和18~20年	
579	黄土色毛織旧日本陸軍軍服外套	昭和初期	
580	黄土色毛織旧日本陸軍軍服外套	昭和13年頃	
581	黄土色毛織旧日本陸軍軍服外套	昭和10~15年頃	
582	黄土色毛織旧日本陸軍軍服外套	昭和13年	
583	黄土色毛織旧日本陸軍軍服マント	昭和6年	
584	黄土色木綿在郷軍人会制服外套	昭和15年頃	
585	黄土色木綿旧警防団制服外套	昭和19年	
586	紺毛織旧日本海軍軍服上衣	昭和初期	
587	紺毛織旧日本海軍軍服上衣	昭和18~20年	
588	黄土色毛織旧日本陸軍軍服上衣	昭和初期	
589	黄土色毛織旧日本陸軍軍服上衣	昭和10年	577と対
590	黄土色毛織旧日本陸軍軍服上衣	昭和22年	576と対
591	黄土色毛織旧日本陸軍軍服上衣	昭和16年製	578と対
592	黄土色毛織旧日本陸軍軍服上衣	昭和16年製	579と対
593	黄土色木綿旧日本陸軍軍服上衣	昭和17年	
594	黄土色木綿旧日本海軍軍服上衣	昭和19年	
595	黄土色木綿旧日本海軍軍服上衣	昭和19年	
596	黄土色木綿愛国婦人会上衣	昭和20年	
597	緑木綿旧日本陸軍軍服上衣	昭和19年製	580と対
598	緑木綿旧日本陸軍軍服上衣	昭和19年製	580と対
599	白木綿旧日本陸軍作業衣上衣	昭和18年製	581と対
600	黄土色木綿旧警防団制服上衣	昭和初期	
601	黒化織国民服上衣	昭和初期	575と対
602	黒化織国民服ズボン	昭和初期	574と対
603	黄土色毛織旧日本陸軍軍服ズボン	昭和22年	563と対
604	黄土色毛織旧日本陸軍軍服ズボン	昭和初年頃	562と対
605	黄土色毛織旧日本陸軍軍服ズボン	昭和10年製	564と対
606	黄土色毛織旧日本陸軍軍服ズボン	昭和15年製	565と対
607	黄土色木綿旧日本陸軍軍服ズボン	昭和18年製	570、571と対
608	白木綿旧日本陸軍作業衣ズボン	昭和15年製	572と対
609	黄土色木綿旧日本陸軍軍服ズボン下	昭和初期	
610	黄土色木綿旧日本陸軍軍服ズボン下	昭和13年頃	
611	白木綿旧日本陸軍軍服ズボン下	昭和14年	
612	白木綿旧日本陸軍軍服ズボン下	昭和20年	
613	白木綿旧日本陸軍軍服ズボン下	昭和15年	
614	白木綿旧日本陸軍軍服ズボン下	昭和初期	
615	黒毛織旧警防団巻脚半	昭和初期	
616	黄土色毛織旧日本陸軍巻脚半	昭和初期	
617	黄土色毛織旧日本陸軍巻脚半	昭和初期	
618	黄土色木綿旧日本陸軍巻脚半	昭和初期	
619	黄土色木綿旧日本陸軍巻脚半	昭和初期	
620	黄土色木綿旧日本陸軍巻脚半	昭和初期	
621	黄土色木綿旧日本陸軍巻脚半	昭和初期	
622	黄土色毛織旧日本陸軍毛布	昭和17年製	
623	黄土色毛織旧日本陸軍毛布	昭和初期	
624	黄土色木綿旧日本陸軍防寒帽	昭和15年	
625	黄土色木綿旧日本陸軍雑嚢	昭和初期	
626	黄土色木綿旧日本陸軍軍服ベルト	昭和初期	
627	黄土色木綿旧日本陸軍背負い袋	昭和19年製	

文化資料館収蔵衣類資料目録(2)

番号	資料名	年代	備考
628	旧日本陸軍行李		
629	奉公袋	昭和初期	
630	奉公袋	昭和初期	
631	奉公袋	昭和初期	
632	奉公袋	昭和初期	
633	奉公袋	昭和初期	
634	慰問袋	昭和初期	
635	白木綿鉢巻	昭和初期	日の丸に「神風」「航空兵器総局長官 遠藤三郎謹書」の文字
636	千人針	昭和初期	
637	千人針	昭和初期	
638	黒木綿無地綿入防空頭巾	昭和20年頃	
639	紺木綿緋綿入防空頭巾	昭和61年製	
640	燈火遮蔽布	昭和20年頃	
641	日章旗	昭和初期	竿付小旗
642	日章旗	昭和初期	竿付小旗、携帯袋付
643	出征旗	昭和12年	
644	出征旗	昭和初期	
645	出征旗	昭和16年	
646	出征旗	昭和初期	
647	出征旗	昭和19年	
648	出征旗	昭和初期	
649	団体旗		「茅ヶ崎市郷友会第参分会」の文字
650	紫木綿在郷軍人会腕章	昭和初期	「田島村分會 班長」の文字
651	横断幕	昭和15年	「奉祝 皇紀二千六百年 新町第十四番組」の文字
652	白木綿襷	昭和15年頃	「建国祭」「新町」の文字
653	紺木綿在日米軍警備員制服長袖上衣	昭和20年以降	
654	紺木綿在日米軍警備員制服半袖上衣	昭和20年以降	
655	白木綿無地野球ユニフォーム上衣		胸部に「UOGASI」の文字
656	白木綿無地野球ユニフォーム上衣		左胸部に「W」の文字、630と対
657	白木綿無地野球ユニフォームズボン		629と対
658	白木綿無地単男物半股引		祭り用
659	白木綿無地袴男物腹巻		祭り用
660	茶木綿つなぎ模様袴男物細帯		祭半纏用
661	白木綿無地単長着	明治～大正頃	御嶽講の参詣のときに着用、背面に参拝した神社の御朱印が押してある
662	白木綿無地単帯	明治～大正頃	634と一揃い
663	白木綿無地鉢巻	明治～大正頃	634と一揃い
664	白木綿無地袴脚半	明治～大正頃	634と一揃い
665	生成木綿無地単長着		富士山に登拝のときに着用、背と前衿に御朱印が押してある
666	白木綿袴手甲		コハゼに「外神田 上村屋」の文字
667	鼠絹無地袴脚半		行脚用
668	鼠絹無地袴脚半		行脚用
669	紺木綿幟	明治34年	「奉納正一位稻荷大明神明治三十四丑年二月初午青木和助」の文字
670	白木綿店名入り暖簾		「阿部浅 電話二五二三番 カツ井 親子井 天麩羅井 天井」の文字
671	白麻流水笹籠模様家紋店名入り暖簾		丸に違い鷹羽紋、「阿部浅 電話(82)二五二三 二四九八」の文字
672	白麻店名入り暖簾	昭和40年以降	「蒲焼 天麩羅 阿部浅本店 電(83)一二六一」の文字
673	紺木綿無地風呂敷	大正初期	自作した綿花で地織りしたもの
674	青木綿幟地風呂敷		幟地を風呂敷に仕立てたもの、「元治二乙丑年二月初午 正一位稻荷大明神」の文字
675	緑木綿唐草模様風呂敷	大正～昭和初期	五巾の大風呂敷
676	茶木綿縞模様風呂敷		「田村呉服店 茅ヶ崎茶屋町」の文字
677	紺木綿牡丹唐草模様夜具地		夜着仕立て
678	紺木綿牡丹唐草模様夜具地		三巾の敷布団側
679	茶木綿格子模様夜具地		三巾の敷布団側
680	橙木綿花唐草模様夜具地		布団側
681	橙木綿花唐草模様夜具地		布団側、三越の商標付き、未使用
682	橙木綿横縞花模様夜具地		布団側
683	柿色木綿花模様夜具地		敷布団側
684	臙脂交織鶴模様夜具地		布団側
685	生成無地真綿布		敷布団とシーツの間に敷いたもの
686	青木綿別珍夜具衿		
687	黒木綿別珍夜着衿		

文化資料館収蔵衣類資料目録(2)

番号	資料名	年代	備考
688	黒絹縦縞女物着尺	昭和47年	昭和47年の特別展イベントにて作成
689	濃紺絹紬横やたら緋女物着尺		
690	紺絹格子模様女物着尺		
691	青絹錦紗銀糸縦縞模様単女物着尺		
692	青絹錦紗波模様単女物着尺		
693	紫絹銘仙矢羽根模様女物着尺		
694	濃茶絹縦縞に型染単女物着尺		
695	茶絹紬縦縞女物着尺		
696	鴉色絹漆牡丹花模様女物着尺		
697	紺木綿緋男物着尺		
698	濃茶木綿緋女物着尺		
699	薄茶絹無地女物胴裏		
700	生成絹無地女物胴裏		
701	白絹羽二重無地女物胴裏		「特選 御胴裏絹 裏襟付 吉川百貨店」の文字入り包み紙
702	紫絹無地女物裾廻	昭和初期	「屋号(丸に「西川」)御裾廻地 壹丈 拾圓八拾銭」の文字入り札付き
703	鼠絹羽二重無地女物裾廻	昭和初期	「屋号(丸に「西川」)御裾廻地 羽二重 壹丈 六圓四拾銭」の文字入り札付き
704	鼠富士絹無地女物裾廻	昭和初期	「富士絹御裾廻地 屋号(「入」に「九」、横浜野澤屋)特價品 金壹圓參拾銭」の文字入り札付き
705	赤絹綸子花模様女物袖口布		
706	赤富士絹花模様女物羽裏地		
707	紫絹錦紗友禅模様女物端切れ	昭和中期以前	晴着用
708	紫絹牡丹唐草模様女物端切れ		
709	白絹紹薄模様女物端切れ		夜具地に使用か